

☆みつけ☆ <http://www.mitsuke.or.jp/>

商工会通信 2013年1月

平成25年 年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様に謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

さて、世界経済は昨年後半以降、欧州債務問題の悪影響が世界的に拡がり、減速した状態が続いています。これに加えて、世界経済の牽引役として期待が寄せられてきた新興国経済も、勢いを欠いています。中国経済は、一部経済指標に改善の兆しがみられるものの、ウエイトの高い欧州向け輸出が落ち込んでいることに加え、素材産業など幅広い分野で在庫調整局面が予想以上に長引いています。また、日中関係の影響が既に各所で顕在化していますが、日本経済にとっては、その広がり懸念されるところです。

わが国経済に目を転じると、昨年前半は、復興関連需要が公的・民間の両面で増加するもとで国内需要が堅調に推移しました。しかしその後は、海外経済の減速した状態を反映して、輸出、鉱工業生産ともに減少しています。また、今年3月末には中小企業の資金繰りを支援する「中小企業金融円滑法」が期限を迎え、終了後に倒産が増加する恐れも懸念されています。

政治の世界では、新しく自民党政権が誕生しました。デフレを脱却し、力強い経済を取り戻すための政策に大いに期待するとともに、官民を挙げて政策遂行にまい進したいと思います。

商工会としては、資金繰りの安定化に向けた金融支援を初めとして、小規模企業の経営や技術の改善発達を図るための経営改善普及事業をきめ細かく実施し、この難局を脱していきたくと考えています。また、役員一丸となり、地域経済発展のための商工業振興対策に取り組む他、様々な地域総合振興事業を展開して参りますので、会員の皆様からなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、デフレ脱却のためには、成長力強化に向けた取り組みが必要です。県内多くの産地においては、これまで長きにわたり、優れたモノ作りの技術を培い、集積してきております。海外企業との競争が年々強まる中であっても、こうしたモノ作りの技術や販路拡大のノウハウを活か

して、国内や海外の市場でトップ・シェアを誇る企業が少なくありません。まさに、国際的な金融危機などの逆境の中でも、成長力強化に向けて不断に取り組んでこられた成果であると思います。

明るいニュースが経済の面からも聞こえてくるよう、私どもも、商工会として最大限の努力を続け、会員の皆様の取り組みを全力で支援して参りますので、会員の皆様におかれましても、イノベーションを創造し、成長力強化に向け、最大限の経営努力をお願いいたします。

今年の干支は巳、動物にあてはめると『蛇』。蛇は脱皮をすることから「復活と再生」を連想させ「神の使い」として崇められます。七福神のひとつである『弁才天』は蓄財と芸能の女神ですが、蛇の形をした神として祀られる事も多いとのことです。蛇は執念深いとされていますが、恩を忘れず、助けてくれた人には恩返しをされると言われています。「復活と再生」に向けチャレンジしましょう。

年頭にあたり、会員の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げ新年のあいさつといたします。

見附商工会長 小林 弘 昌

MITSUKE KNIT パリ展示会出展

MITSUKE KNIT は、いよいよ1月にパリにデビューします。ファッションの本場パリでの成果をご期待ください。

【MITSUKE KNIT HP】 <http://www.mitsukeknit.jp>

【MITSUKE KNIT Facebook】

<http://www.facebook.com/Mitsuke.Knit> (PC版)

<http://m.facebook.com/Mitsuke.Knit> (モバイル版)

見附商工会新春企業交流会(新年会)のお知らせ

今年度の「新春企業交流会」は、三國谷前金融庁長官を講師にお迎えし、特別講演会を開催いたします。多数の方々のご参加をお待ちしています。

開催日時 平成25年1月30日(水) 15時30分より

開催場所 ホテルつるや

負担金：5,000円(なるべく申込時に御持参願います)

*申込期限を1月16日(水)まで延長いたします。



信州大学繊維学部視察研修会に参加して

小規模企業振興委員 土田 和男

去る11月27日商工会繊維部会の案内で信州大学の繊維学部を視察に行きました。

当日は冬型の気圧配置で小雨交じりの中マイクロバスで出発、高速道路では柏崎IC、あたりから徐々に風雨が強くなり、とうとう妙高IC付近では本格的な降雪となってしまう、信州への旅は大変な行程になってしまうのかと心配しましたが、長野IC近くまで進むと意外にも雪はやみ松代サービスエリアでは少し陽も差してきました。

高速道路を降り上田の市内を少し走り目的地の信州大学繊維学部に着くと、関東地方の冬の天候を思い抱かせるような暖かい日差しの中、学生さんたちはコートなしで大学構内を歩いていました。

大学の構内に入るのは子供の入試や卒業式以来で、何か若い学生たちの生き生きとした姿にパワーを感じ、自分自身も若さを取り戻した気持ちになってしまいました。

予定より少し早く到着したこともあり、上田地方では雪は少なく厳しい寒さの生活環境などを聞き、その後、学部長の話、産学推進担当教授の話、実際に産学共同研究をされている教授の話などを聞き質疑応答、構内の見学で約2時間半でした。

まずは、日本には大学繊維学部は信州大学だけとなりオンリーワンの状況、文部科学省の大学の構内に経済産業省の補助金で建てられた校舎の存在、更にこの校舎内には実用実験を可能にする紡績機や織機などの設備また産業界に貸し出すルームの構造に感心しました。

これ以上に訪問した私たちに先生方が3人、コーディネーター1人という熱心な大学の産学に対する姿勢は、私にとって現在大学の存在や状況などの認識を大きく変えるものでした。

信州大学繊維学部の成り立ちは、上田地区で明治時代からはじまった養蚕産業に始まり、養蚕専門学校設立その後繊維専門学校となり、戦後に信州大学繊維学部になった歴史をもち、今でも農業科学、生物学（現在ではバイオ科学）、機械工学の研究、さらに繊維を「細くて長いもの」として捉え、ナノテク、カーボン繊維、医薬品、更には人間の脳波、心を研究する先生方など幅広い研究をしているとのことでした。

改めて繊維の人間生活における役割は今現在も大きいことを実感し、未来にも大きな役割を果たすことを感じました。

ここ見附市においても歴史ある繊維産業がありますが、このような産学の取り組み等で幅広い分野の役割をもつ繊維が、未来に残る産業に繋がっていくことを期待します。